

「中国 ～それは想像を絶する面白い国だった！～」

赤松咲

#### [はじめに]

今回、埼玉県から、また山西大学からこのような留学の機会を頂いたことにとても感謝しています。この一年間の留学生活は、私の一生できっと忘れられない時間となると思います。

#### [留学のきっかけ]

日中関係、世界情勢などに元々興味はあったのですが、他の中国マニアや政治マニアに比べたら私の興味というものはちっぽけなものでした。中国の文化にとりわけ興味があった、といえそうでもなく、「中国共産党、情報検閲…」といった、どちらかというともあまり良くない、そんなイメージを中国に抱いていました。そもそも、この日中関係の悪い中、わざわざ中国に行きたい、と考える人の方が珍しいのかもしれませんが。ですから、日本を立つときは、友人や家族、親戚などに何故中国なのかと驚かれたものです。多くの人々がイギリスやアメリカに留学に行く中、私はあえて中国へ。しかし、その決断は決して間違っていなかった、と今思います。

#### [語学について]

拙い中国語でツテもなかった私が何故あの時出国を決意したのか、今でもよくわかりません。ただ一つ確実だったのは、中国語が好きだったからだと思います。中国語という言語体系、またその音声のつくりは他の言語に比べて惹かれるものがあつたのでしょうか。ですから、中国へ到着後、どんなに中国語が話せず苦勞したとしても、その困難さえ面白い感じることができました。「わからない」ということは一種のチャンスでもありますから、それを受けとめられたのです。今、語学ブーム、とりわけ英語ブームですが、その目的は話せるようになること、使えるようになること、にあると思います。目的それ自体は作るべきものですし、その通りなのでしょう。しかし、目的が先走ると、とても

辛くなります。例えば、一生懸命勉強しているにも関わらず、なかなかレベルが上がらなかつたり、実際に母国語の人と会話に支障が生じたり。それが多くの人々の挫折につながることもあるのでしょう。しかし、語学はそれほど単純なものではなく、すこしかじったからといって流暢に話せるようにはなりません。突き詰めれば突き詰めるほど、味わい深く、そして新しい世界が広がるものなのでしょう。私が中国語を話せるようになった一番の理由は、目的が先走りをしなかったことにあると思います。「やっていて楽しい」「もっと勉強してみたい」、その一心で勉強をしていました。もちろん、自分のレベルがなかなか上がらなくて、落ち込むことも度々ありました。しかし、やはり好きという気持ちの方が勝ったのだと思います。また、私の中国語レベル上達の一番の要因はやはり、中国語を使って生活せざる得ない状況に追い込まれたからでしょう。太原はそもそも外国人が少なく日本語を話せる人も日本人も数えるほどしかいません。逆に言ってしまうと、それは大変恵まれた状況なのです。たった今、留学を考えているけれど、自分の能力をもっとあげてから…、という方。恐らく、ちょっとそこら独学したところで語学能力はそこまで上達しないと思います。語学とはある意味、強制的な環境でなければ習得は難しいのかもしれませんが。もちろん、独学であらゆる言語を流暢に話す人はいます。それは事実です。しかし、それにはよほどの忍耐と時間をかけなければならないでしょう。

#### [中国人とは]

実は、出国前は反日的な中国人から嫌な思いをうけるのではないかと心配してしていました。面接のために埼玉県庁を訪れたときも、面接官の方から「太原は比較的保守的なところで、もしかしたら外国人、とりわけ日本人はいやな思いをするかもしれません、どうしますか。」という質問を実際に受けました。そのこともあり、私は内心びくびくしていたのです。しかし、実際、少なくとも私の付き合いしていた中国人は大変友好的なひとたちばかりで、日本人ということで嫌な思いはしたことはありません。中国人の中にも様々な人がいて、悪い人もいればいい人もいます。それは、世界のどこに行っても同じことなのです。国を語る上で、よく「日本人だから～」「中国人だから～」という人たちがいますが、留學生活で様々な国籍の人々と触れ合う中で、それが暴力的な語りなのだと、実感しました。確かに、国によって傾向みたいなものはあるし、また「～人は○○だ」という風にしなければ、会話を始めることさえできないと

いのも事実です。私に付き合ってくれていた中国人たちも、表に出さなくとも日本人に対して憎しみを抱いていた人がいたことも事実でしょう。しかし、それでも彼らが私にしてくれた「行い」は感謝すべきものばかりで、それはナショナリティを超えたものでした。中国に留学をして、中国語を勉強し、中国語検定や学校の成績も結果として、自分なりによく頑張ったものだったと思います。けれども、私がこの留學生活で得た一番のものは、中国人と日本人との間に培った友情であったと思います。彼らとは、日中関係についても深い部分まで語り合いました。意見が合わなかったとしても、それは私たちの友情を壊すものではありませんでした。かえってそれを深めたものだったと思います。留學生活において、多国籍の友人と会う機会に多く恵まれるでしょう。アメリカ、ロシア、韓国、フランス、イギリス、タジキスタン、アフガニスタン、イエメン、ガーナ、アフリカ、インド、バングラデシュ…。世界中に友人ができることは、ナショナリティを意識させられる同時にそれを超越することでもあります。これから留學される方々が、是非良い出会いに恵まれることを願っています。

#### [中国のご飯]

中国は広い。ですので、当然文化も気候も食も地域によって異なってきます。最近では都市部を中心にスターバックス、マクドナルドなどのウェスタン料理も普及しています。私は、留學生活の間、成都、武漢、昆明、北京、上海、太原、など様々な都市を旅行してきました。そこで、私の食の体験記をお話したいと思います。(美食都市ランキング) 一位：上海、二位：北京、三位：太原。もちろん私の好みですが(大都市ほど、食にもこだわる生活の余裕が出、食べ物も美味しくなるため、この結果に至ったのでしょうか)。一位の上海は海辺の町ということもあり、やはり海鮮が美味しいです。「小楊生煎(xiao-yang-sheng-jian)」というピンク色の看板のチェーン店があります。「上海生煎」というのは上海生まれの料理。餃子のような皮に包まれ、形はまるかったり、四角かったりと様々。中には、肉や野菜、海鮮などの具が包まれています。外国人にも人気のお店です。スープもあり、その味わいは海鮮のうまみでいっぱい。上海は比較的物価が高い都市ですが、このチェーン店はお手頃価格で、日本円で300円一セット食べることができます。次に二位、北京。北京といえば北京ダック。ダック全体を吊るし、炉で焼いたもの。その全身の皮の一部分だけを頂くという、な

んとも贅沢な食べ物です。その為、伝統的な美味しい北京ダックを食べようとするとお値段も当然のことながら割高…。ですか、北京に行くのならば、(いくら値段ははろうともなんでも) 絶対北京ダックを食べるべし! かりかりとしたダックの皮を噛み締めた途端、濃厚な油のうまみが口に広がる絶品。おすすめは、砂糖をダックにほんの少しまぶして召し上がれ。ほのかな砂糖の甘さがダックのうまみと香りをひきたてます。次に三位の太原は、以前のレポートで紹介したように、麺類が一番。他の地に行って麺類を食べましたが、(いくらスープが美味しくとも) 麺にコシが無くて、美味しくない…。中国で太原以外に美味しい麺類のお店には出会ったことはありません。次に、四川や雲南などの南方料理。ご存知の方もいらっしゃると思いますが中国は、南方は米、北方は麦。好みも大きく分かれます。南方に旅行した際、雲南の料理は残念ながら私の好みにはあわず、食べられても下痢と吐き気がひどいという日が何日も続いてしまいました。留学生活にて、食は切っても切れない関係にあります。慣れというものもあると思われそうですが。なお山西大学の留学生寮には共同キッチンがありますので、自身で作ることも可能です。日本の調味料は中国で売られてないことが多く、またあったとしても割高ですので、持参された方がよろしいかと思われまます。

## [活動]

中国では、沢山の人々にお世話になりました。旅の途中で知りあった人から、友人まで。その幅ははかりしれないものです。その感謝の気持ちを込めて、私は中国人を対象に折り紙教室を開き、お寿司やみそ汁を作って皆にごちそうしたり、日本のことや中国のことなどについておしゃべりする場を設けました。日本の繊細な伝統文化は中国に限らず海外にて高く評価されています。おりがみ教室といっても、みんな来てくれるかしら…、と心配していたのですが、当日は十人以上の人々が参加しに来てくれました。これは留学以前から聞いていたことですが、中国では、日本よりも人との輪を大切にします。知り合いから、またその知り合いへと人間の輪が広がっていくのを、私は経験を通して実感しました。この活動だけではなく、他の様々な活動を通して私は沢山の人々と触れ合いました。是非、何か面白そうなことがあれば、進んで顔を出してみると良いと思います。そこから新たな触れ合いの場に発展していくかもしれません。

[おわりに]

中国語で「缘分(yuan-fen)」という言葉があります。日本語では、「ご縁」と訳されるものです。今回、私は多くの缘分に恵まれました。中国人は私にこの言葉の大切さを教えてくれました。私と関わってくださった多くの中国人に深く感謝します。また留学生活において、私を支えてくれた友人、そして両親、家族に深く感謝します。最後に、今回このような素晴らしい機会を与えてくださった埼玉県、職員の方々、担当して下さった松井さん、難波さんに深く感謝致します。どうもありがとうございました。

2015.08.10.



北京大学にいる知り合いを訪れた際、案内してもらった頤和園



太原市内にある動物園です。入場料は学割で100円程度でした



このピンクのマークが「小杨生煎」です



北京ダック、最高にうまい！お店では、ダックが丸ごと吊るされています。面白いので是非みて下さい。